

## 教科目名 哲学特論Ⅱ (Special Lecture on Philosophy Ⅱ)

**専攻名・学年** : 全専攻 2年 (教育プログラム 第4学年 ○科目)

**単位数など** : 選択 2単位 (後期1コマ, 授業時間 23.25時間)

**担当教員** : 堀 栄造

授業の概要			
現代哲学の主潮流の一つを成すドイツの哲学者エドムント・フッサールの創始した現象学は、意識による世界の志向的構成を研究する認識論であるとともに、また、意識が構成した世界を土台として学問が構築されるさまを研究する学問論でもある。したがって、フッサールの現象学に学びながら、科学の学問論的位置づけや学問論的意義を考察する。授業全般を通じて、科学の学問論的位置づけや学問論的意義を理解させるとともに、哲学的思考力を養成することに努める。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) フッサールの現象学は先験的(超越論的)意識の次元による経験的世界および理念的世界の基礎づけであるということ考察することによって、科学の学問論的位置づけや学問論的意義を理解する。(定期試験)			
(2) 哲学的文章を通して西洋的思考および西洋的文化に接し、地球的視点から多面的に物事を考える力を身に付ける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	「立体的超越論化」としての超越論的還元	○「平面的純粹内在化」と「立体的超越論化」の区別について理解できる。	【理解の度合い】
2	超越論的還元の遂行と再生的変様	○超越論的還元の遂行と再生的変様について理解できる。	
3	1910/11年時点の超越論的還元における真の現実	○1910/11年時点の超越論的還元における真の現実について理解できる。	
4	超越論的現象学的エポケー	○超越論的現象学的エポケー、思惟の変様と中立性変様について理解できる。	
5	思惟の変様と中立性変様	○『イデーⅠ』における真の現実について理解できる。	
6	『イデーⅠ』における真の現実	○『イデーⅠ』における真の現実について理解できる。	
7	同上		
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9	後期中間試験の解答と解説 フッサール著『ヨーロッパの諸学の危機と超越論的現象学』の講読	○自然科学の意味基底としての生活世界について理解できる。	【理解の度合い】
10	同上	○「平面的生」と「奥行の生」について理解できる。	
11	同上	○客観的論理的アプリオリと生活世界のアプリオリとの間の原理的区別について理解できる。	
12	同上		
13	同上		
14	同上		
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
<b>履修上の注意</b>	ノートをしっかり取り、十分に復習すること。		【総合達成度】
<b>教科書</b>	堀栄造著、『フッサールの脱現実化的現実化』, 晃洋書房, 2006年。		
<b>参考図書</b>			
<b>自学上の注意</b>	授業内容をそのつど十分に復習しておくこと。		
<b>関連科目</b>	哲学特論Ⅰ, 哲学概説, 倫理。		
<b>総合評価</b>	2回の定期試験により評価する。評価が60点以上を合格とする。再試験は、総合評価が60点に満たない者に対して実施する。		【総合評価】 点